三多摩青年合唱団＆第４２期研究生

あめあがりコンサート

2010. 2. 11（木・祝）

開演18:00

主催　三多摩青年合唱団
後援　三多摩うたごえ協議会

プログラム

指揮　杉森俊幸

ななくさ	阪田寛夫 詩	松下耕 曲
さくら	日本古謡	信長貴富 編曲
一番はじめは	わらべうた	信長貴富 編曲

指揮　峯崎りみ
ピアノ　峯崎道子

手紙	アンジェラ・アキ 詩・曲 鷹羽弘晃 編曲	
信じる	谷川俊太郎 詩	松下耕 曲
生きる	谷川俊太郎 詩	武義和 曲
風になりたい	川崎洋 詩	寺嶋陸也 曲
さくら	森山直太朗/御徒町凧 詩	森山直太朗 曲 松下耕 編曲

プログラムノート

ななくさ　松下耕作曲の「混声合唱のためのア・カペラエチュード」より

さくら　一般に日本古謡といわれているが、幕末に箏の練習曲として作られたもの

一番はじめは　さくら同様信長貴富のアレンジ。
「無伴奏混声合唱のための7つの子ども歌」より

手紙　２００８年　ＮＨＫ全国学校音楽コンクール　中学校の部の「そして＊未来へ」というテーマでアンジェラ・アキが作詞作曲

信じる　２００４年　ＮＨＫ全国学校音楽コンクール　中学校の部の「信じる」というテーマで谷川俊太郎が作詩・松下耕が作曲
２００６年　三多摩青年合唱団が混声四部に委嘱し、新たに３曲を足して混声合唱とピアノのための「信じる」を初演

生きる　「うつむく青年」という詩集に収録されている
生きること・いのちというテーマをわかりやすい言葉でうたっている

風になりたい　２００５年　ＮＨＫ全国学校音楽コンクール　高等学校の部の「はたらく」というテーマで川崎洋が作詩・寺嶋陸也が作曲

さくら　出会い・別れ・旅立ち
さまざまな卒業の場面で人の心によぎる思いをうたっている

プログラム

合唱オペラ 「白墨の輪」

元曲「灰欄記」 ベルトルト・ブレヒト
《コーカサスの白墨の輪》にもとづく二幕のオペラより

指揮　杉森俊幸
ピアノ　笹有理子

台本　廣渡常敏
作曲　林光
構成　竹田恵子

合唱オペラ「白墨の輪」

反乱の夜、ついうっかり「人間らしさ」への誘惑に負けた娘グルシェは、領主夫人に置き去りにされた赤ん坊ミヘルを道連れに、逃げる。ミヘルに愛情をいだき始めた娘は、やがて自分の子ども、すなわち平民の子として育てる決心をする。都の反乱がおさまると、産みの親である領主夫人があらわれ、領地と財産欲しさにミヘルの母親であることを主張する。産みの親と育ての親。二人を裁くのは、どさくさのなかでまつり上げられた怪しげな裁判官アツダク。そしてその結末は・・・。

1978年にオペラシアターこんにゃく座が初演した「オペラ白墨の輪」は2時間を超える作品です。今回、初演でグルシェを演じた元こんにゃく座代表の竹田恵子さんとオペラ演出家恵川智美さんの協力を得て、半分の長さに再構成していただき、上演します。

主役の娘グルシェを、7人の「娘」が交代で、また同時に、時に女声合唱で演じる、物語の歌手は出演者全員が分担し歌い演じる。本家のオペラ「白墨の輪」と同じなのは、それを支える楽器がピアノ一台であることだけかもしれません。かなり乱暴な手法で私たちの合唱オペラ「白墨の輪」は出来上がったのでした。

乱暴ではありましたが、それでも私たちはこのオペラに挑戦したかった。それはソロモン王の逸話がもとであるといわれ（私たち日本人には大岡裁きでお馴染み）、たぶん世界中でくり返し語られてきたお話を借りたこのオペラの魅力が、何よりも私たちを捉えて離さなかったからです。

キャスト

人々　三多摩青年合唱団＆第42期研究生

物語の歌手　大井恒太 ☆
島袋美恵子
上村明子
古賀悟
東深沢茂
高杉昌雄

カツベキ　井上剛毅

領主夫人　米内千春 ☆

領主　須崎英

侍女　会澤玲子
濱崎友絵

乳母　小林昭子

グルシェの兄　箱崎作次

グルシェの兄嫁　三浦鈴子

グルシェ　大山美穂子 ☆
落合聡子 ☆
和島美沙子 ☆
木谷麻衣子 ☆
三浦幸子
島田敦子 ☆
田島則子

シモン　箱崎宏史 ☆

女　朝海牧子

甲騎兵　太田隆樹 ☆
西村拓也 ☆

ひとりの女　青木まち子 ☆

料理女　峯崎りみ

裁判官アツダク　平野治

スタッフ

演出　恵川智美
舞台監督　池田正宣
照明　稲葉直人 (ASG)
合唱団舞台　塚野尤次

☆印　研究生